

国立大学法人室蘭工業大学の平成 17 年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

室蘭工業大学は、20 世紀の科学技術の飛躍的な進歩が社会の発展に寄与した反面、環境への影響など負の遺産をもたらした側面に目を向け、科学技術と人間、社会、自然との調和を追求する創造的な教育研究の展開を目指している。

平成 17 年度は、社会の幅広い知見を大学経営に積極的に活用するため、総務、労務、財務、広報等を担当する理事を民間から迎えており、今後の大学運営等に対し、重要な役割を果たすことが期待される。また、学外者を採用するにあたり、教育研究以外の経験を配慮した評価を行っており、学外者の積極的採用につながる取組として評価できる。

この他、業務運営については、科長等が人事・予算を含め学科等の運営に責任を持つ体制としているが、業務運営の改善及び効率化の観点から、学長のリーダーシップがより発揮されるシステムとしての活用が期待される。

財務内容については、学長裁量経費による学内支援制度を設け、科学研究費補助金の獲得推進及び共同研究経費を獲得した教員への財政的支援を行い成果をあげている。

教育研究の質の向上については、総合理工学の研究を推進するため、環境防災、航空宇宙、感性工学の重点 3 領域に学長裁量経費を配分し、研究の活性化を図るとともに、新設した「室蘭工業大学教育・研究振興会」により、学業優秀者等に対する奨学金制度を創設し、学生支援策にも力を入れて取り組んでいる。

2 項目別評価

・業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化

- 運営体制の改善
- 教育研究組織の見直し
- 人事の適正化
- 事務等の効率化・合理化

平成 17 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

社会の幅広い知見を大学経営に積極的に活かすため、総務、労務、財務、広報等を担当する理事を民間から迎え入れている。

教育研究以外の大学活動に外部人材の活用を図るため、経歴の評価について検討し、民間経歴を十分評価することとしている。

教員採用は公募を原則とし、英語による公募要項を作成するとともに、ウェブサイトに掲載し、広く国内外へ発信している。

平成 16 年度に設置した学長枠定員を活用し、実用的な英語教育のためのネイティブスピーカーや、研究活動の活性化のため、環境科学・防災研究センター、航空宇宙機システム研究センター等に採用又は採用決定をしており活性化を図っている。

技術職員の役割の明確化と技能の向上を図ることを目的として技術部を設置し、実際の業務にあたっては各部局へ派遣する業務依頼方式を導入している。

学科長等が人事・予算を含め学科等の運営に責任を持つ体制としているが、業務運営の改善及び効率化の観点から、学長のリーダーシップがより発揮されるシステムとしての活用が期待される。

平成 17 年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

役員に対する報酬及び退職手当の支給の基準については、経営協議会において審議すべき事項であるが、報告事項として処理がなされていることから、適切な審議が行われることが求められる。

【評定】中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 19 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善

外部研究資金その他の自己収入の増加
経費の抑制
資産の運用管理の改善

平成 17 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

学長裁量経費による学内支援制度を設け、科学研究費補助金の獲得推進及び共同研究経費を獲得した教員への財政的支援を実施することを通じ、受託研究等収益を平成 16 年度より約 8,200 万円増加させ、外部資金比率が平成 16 年度 3.5 %から平成 17 年度 4.9 %へと 1.4 %上昇している。

平成 16 年度に構築した奨学寄付金のオーバーヘッド(5%)に加え、受託研究(受託事業)の間接経費(30%)を大学管理経費として管理し、大学全体の共通経費や研究費に充当する制度を構築している。

管理的経費の削減は、重油の大幅な値上がりや厳冬による重油使用量が増加したにも関わらず 1%削減の目標を達成し、一般管理比率についても、平成 16 年度 7.2 %から平成 17 年度 3.9 %へと 3.3 %低下している。

各教室の使用状況を把握し、空き教室を学外に開放するなど施設の有効な活用を図っている。また、施設の一般開放に係る利用規程及び教育研究設備の民間企業等への開放に係る利用規程を整備している。

同窓会・地域企業の協力のもと、大学諸活動の恒常的な支援を目的に「室蘭工業大学教育・研究振興会」を設置している。

中期計画における総人件費改革を踏まえた人件費削減目標値が設定されている。なお、今後、中期目標・中期計画の達成に向け、着実に人件費削減の取組を行うことが期待される。

【評定】中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 9 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び情報提供

評価の充実

情報公開等の推進

平成 17 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

平成 16 年度に構築した教員の多面的評価システム (ASTA2005) を試行している。
大学経営評価指標による評価システムを導入し、その評価結果を踏まえて、ネイティブスピーカーによる英語教育強化及びプレゼンテーション力や創造性を養うためのカリキュラムの改善を実施している。

【評定】中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 4 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要事項

施設設備の整備等

安全管理

平成 17 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

建物、設備の工事履歴、設備台帳を整備し、分析・評価を行い維持管理の年度別基本計画を策定している。

災害、事件・事故、薬品管理等に関する全学的なマニュアルとして安全管理マニュアルが策定されている。

【評定】中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 7 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

・教育研究等の質の向上の状況

評価委員会が平成 17 年度の外形的・客観的進捗状況について確認した結果、下記の事項が注目される。

全学を挙げて積極的に日本技術者教育認定機構（JABEE）の認証を受けることとし、機械工学と土木工学の分野で認証を得、豊かな人間性と工学に関する高度専門知識を身につけた科学技術者を養成に取り組んでいる。

大学の教育理念や各学科・専攻毎の教育目標をウェブサイト、履修案内等で学生に周知し、理解度の調査等から達成度の評価を行っている。

シラバスに各授業科目の達成目標及び成績評価方法・基準を明記することとし、厳格な成績評価に努めている。

総合理工学の研究を推進するため、環境防災、航空宇宙、感性工学の重点3領域に学長裁量経費を配分し、研究の活性化を図っている。

環境科学・防災研究センターに生態分子間相互作用解析装置、航空宇宙機システム研究センターに中型超音速風洞試験設備を設置し、全学的な利用に供することにより、共同利用施設の充実を図っている。

知的財産本部に知的財産審査会を設置し、特許等を一元的に管理する体制の整備と関連する諸規則等の整備を行い、さらに、特許セミナー、シーズ提案会等を開催した結果、14件の特許出願申請を行っている。

学長裁量経費により、公募型の競争的経費の拡充を行い、学内の共同研究等12件、国内共同研究2件、海外協定校との共同研究3件の支援を行っている。

財団法人との業務提携に基づき、地域共同研究開発センターに「産学連携支援室」を開設し、リエゾン活動の強化による地域貢献事業を展開している。

機器分析センターの機器利用を学外者に開放するための体制を整備し、技術講習会を実施するなど地域技術者の育成を支援している。

「室蘭工業大学教育・研究振興会」による、学業優秀者等に対する奨学金制度を創設している。